

震災ボランティア派遣 FAX通信⑯

各組合・地域労連

御中

2011年7月20日



週末ボランティアもOK!

青森県労働組合総連合

青森市大野字若宮 165-19

TEL 017-762-6234、FAX 017-729-2186

メール ao110@kenrouren.jp

【発信者】事務局長 有馬美恵

第4チーム・山崎さんの感想です

震災ボランティア体験記 一陸前高田 (7/8~10) -

山崎 潤平 (青森民医労)

陸前高田は海岸平野部の中心街が全て津波に飲み込まれ、市内を流れる気仙川沿いに内陸6～8kmまで津波が遡上した地域です。人口2万3千人のうち約1割の方が犠牲になりました。8日の朝、職場仲間に見送られ出発した私たちは、昼頃には現地に到着。コンテナ造りの災害ボランティアセンターに出向いて、最初に依頼された仕事は、小友小学校の運動会の会場設営の手伝いでした。廃墟となった街の海岸線を車で通り抜け、たどり着いた小学校は、まだ瓦礫の山が散乱する中にかろうじて残った高台の上にありました。道一本隔てた小友中学校は数メートル低い場所にあったため、校舎と体育館が破壊され使用できなくなってしまった。今は小学校に間借りしているとのことでした。全国から集まった一般ボランティアの皆さんと草むしりやテント設営などをしました。瓦礫の中にあっても元気いっぱいな小学生たちが印象的でした。



2日目。50km離れた奥州市にある宿から車でボランティアセンターに行き、受付をした後、マッチングの列に並び仕事を請け負います。なんとなく日雇い労働の斡旋所のような風景です。午前の依頼は浸水したお家の家具の掃除と搬入のお手伝いでした。休憩時に海が全然見えないくらい離れた場所にあるお宅まで津波が押し寄せてきたという、お家の方のお話が生々しい。差し入れで頂いた手作りパンケーキとアイスコーヒーは美味しかった～。ご馳走様でした。午後は場所を移して、泥に埋まったコンクリートブロック等、建築資材の仕分けです。30℃を超す炎天下の中、作業着&帽子&安全靴&ゴム手袋の出で立ちでの慣れない肉体労働はきつかった～。それでも、30人ぐらい初顔同士のボランティア仲間たちと一致団結し、熱中症もケガも無く無事に作業を終えたときは全員がひとつのチームになったような一体感が生まれました。

3日目は、朝から陸高南東部の広田半島の浜に散乱した瓦礫やゴミの片付け。…のはずでしたが、作業を始めて間もなくグラグラ！？ 程なくしてサイレンとともに3・11以来初めての津波警報・注意報が発令され、急遽、全員が高台に避難することに。実際観測された津波はほんの10cm程度だったようですが、高台からは津波？と思われる群青色の線が海面に浮かび上がっているのが見え、3・11の日のことを想像すると背筋がぞつとする思いでした。その日は丸一日、陸前高田の全ボランティア活動は中止となつたそうです。



現地で出会つた仲間とともに
に。(前列真ん中が山崎さん)

3日間のボランティア活動でしたが、他にも様々な貴重な経験をすることが出来ました。

手作り公衆浴場「復興の湯」では疲れた体も心も癒すことが出来ました。かめや旅館さんは家族経営で心温かく、食事はいつもボリューム満点で美味しいかった～。よく耳にする「被災地に行くとかえって元気を貢える」という言葉は本当です。

復興の鍵を握っているのは、人と人との強く温かい繋がりだと思います。陸前高田をはじめ、被災地の復旧・復興はまだまだ長い道のりの途中です。今後も、参加できる条件がある方はぜひ災害ボランティアに参加して欲しいと思います。被災地では皆さんを待っています。